



「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる」（イザヤ書 9 章 5 節）

クリスマスはイエスさまのお誕生日をお祝いする日です。町もお店も、クリスマスの飾り付けで一杯です。でも最初のクリスマスは、人間の想像もできないような寂しい馬小屋でした。そこにお祝いに駆け付けたのが、羊飼いと東方の博士たちでした。聖書では、羊飼いの記事がルカによる福音書（第二章）に記されており、東方の博士たちの記事がマタイによる福音書（第二章）に記されています。この別の福音書にそれぞれ記されている二つの記事の間には、どのような共通の意味があるのでしょうか。

羊飼いたちは動物の世話をし、どこに水があり、どこに草があるか等に気を配り、自然の中で生きていました。教育があったわけでもなく、財産や地位があったわけでもありません。

それに対して博士たちは、天文学等の学問にすぐれ、財産を有し、地位が高かったでしょう。彼らは外国を旅し、マリアやヨセフとは異なった言葉を話していたでしょう。博士たちにとって、御子の誕生は宮殿だと思われていたでしょう。しかし導き手の星が止ったところは、馬小屋でした。博士たちにとって、御子がユダヤ人かどうか、お金持ちであるかどうかは問題ではありませんでした。ただ拝みに来たのです。

同じクリスマスの出来事でありながら、二つの別の福音書で、このある意味で両極端のタイプの人たちについて語られていることは、大変重要だと思います。つまり、全世界すべての人びとに、救い主イエスさまを求める旅が示されているのだということです。一人のみどり子が全世界の人びとのために生まれ、権威がその方にあり、永遠の父、平和の君となられたということを覚えるとき、羊飼いと博士の話は一つになります。

御子の前に、教育、教養、地位、言葉、国、民族の違いは関係ないということです。神さまを父として、人間の悲しみをとり去り、癒すために生れられたイエスさまを、私たちは、その置かれた状況の違いをこえて、喜びをわかち合いながら迎えるべきことが記されているということです。二千年前の、その時のユダヤの人のためだけでなく、今日の全世界の人たち、私たちのためにお生れになった御子の誕生を、喜びお祝いしましょう。

（鎌田在弥）



わんしょうあつまり

保育参加を振り返って

9月10月の間に4回に分けて行った保育参加。運動会も近いこの時期、身体を動かすことの楽しさを感じて欲しいと思い、おうちの方たちにも協力していただきながら、バー跳びや玉入れ、縄やボール、鉄棒やマットなどの運動遊びを行いました。そして、最後の保育参加では、秋空の元 芋掘り前のお芋畑へお散歩にも行ってきました。参加してくださった皆さんからのアンケートと共に、振り返りたいと思います。

❖印：アンケートより抜粋



- ❖ ただの参観ではなく、一緒に活動したことでクラスの子の顔も覚えることができ、私も楽しめました。
- ❖ お友だちとの関わりやクラスの雰囲気も分かり、安心しました。
- ❖ クラスのお友だちとの関わり方やクラスの雰囲気も見られてよかったです。
- ❖ 子どもたちと全力で遊んでクタクタになりながらも、久しぶりにいい汗をかいて有意義な時間を過ごせました。

「保育参観」ではなく、「保育参加」であることをご理解下さり、ありがとうございます。

春に入園して、今ではすっかり幼稚園という新しい場所や人間関係に慣れてきた子どもたち。友人関係が深まったり、様々なことにチャレンジしたりする姿が見られます。しかし、入園したての一学期に保育参加を行うことは、自立に向かおうとする気持ちを後戻りさせてしまうことになります。二学期になり、心身ともに成長した子どもたちならば、幼稚園におうちの方が来てくれることを楽しみにでき、更なる自立の助けになるのではないかと考えています。

- ❖ 色々と自宅では見られない子どもの良い面・悪い面を知る事が出来ました。
- ❖ 「つかれた～」とか「もう嫌だ」とか言いたさなくて、体力がついたなと嬉しく思いました。
- ❖ 普段いない親がいて照れくさいのか恥ずかしいのか、なかなか皆と同じことができずに教室の中をうろうろするばかりで少し残念でした。
- ❖ 先生の話聞いて理解して実行することが、まだまだ難しい年齢だとは思いま





すが、どの子も頑張っていて取り組んでいる姿がとてもたのしく感じました。

- ◆ 子どもたちは楽しいこと、体を動かすことが本当に大好きで、みんなでやるという事も楽しいと分かり始めていて、家ではできない経験をたくさんさせてもらっていると改めて感じました。
- ◆ これからもあつまりを通して、ふだん自分から挑戦しないようなことにもたくさんふれて、色々な経験をしてほしいです。



おうちの方が来られたことで、「かっこいいところを見て欲しい！」と更に頑張る子どももいれば、甘えたかったり照れくさかったりして活動に参加しにくい姿を見せる子どももいます。お子さんのできるできないではなく、十人十色な子ども一人ひとりの成長のペースを受け止めていただけると嬉しく思います。

また、子どもたちの興味の広がりや人間関係の広がりを、感じていただけたようで嬉しく思います。ご家庭でも、一緒にできる簡単な運動遊びを取り入れ、子どもたちが身体を動かす楽しさや気持ち良さを一緒に感じていける時を持っていただけたら、と思います。

- ◆ スタートの時間が30分ほど遅れてしまったのが、もっと一緒に子どもたちといる事ができたのにと少し残念でした。
- ◆ 始まる時間が予定の30分程過ぎてからのスタートだったので、残念でした。でも他との兼ね合いもあるし、子どもをムリに急かさない？ため？だったのかな？

保育参加4日目の芋畑へのお散歩の時、開始時間が予定よりも遅くなってしまい、ご迷惑をお掛けしました。

子どもたちは日々違う姿を見せ、毎日様々な事が起こります。些細なアクシデントによって、子どもたちと関わらざるをえない、予定通りにいかない状況が起こることをご承知置きください。

- ◆ お弁当や給食なども一緒に食べてみたかったです。
- ◆ 年中年長さんとのように関わっているのかを見られる機会もあるといいなあとおもいました。

幼稚園では絵本読み父さん母さんをはじめ、お手伝いして下さるおうちの方を募集しています。これをきっかけに、ぜひ参加してみてください！

また、今後も保育参加の機会を考えていきますので、お待ちください。

